

教材と人名について

—教生実習のために—

光 谷 音 吉

新聞、雑誌、その他いろいろの機関を通して、今日、我々の眼前には非常に多くの人名が紹介され、それぞれの趣味の生活や思想、文学、或は観賞などの対象として親しまれ、科学、政治、経済などのあらゆる分野の現在の時点で、大きな役割を果している人々として知らされ、その数は極めて老大である。

高校3カ年の生活の中に於いても、生徒たちが見聞し、紹介される人の数も又我々と同じように老大なものであるに違いない。彼らが教科以外に接する人の数については、環境によって異なるであろうから、今、簡単に調査することも困難であり、その数を推算することは容易に出来ないが相当の量になるものと思われる。

履習されている各教科の教科書を眺めてみると、とくに歴史的記述として意図されていない個所でも、それぞれの教材の中で、歴史的に重要な役割を果して来た人々の活動について、著作の紹介や、研究された原理・原則の説明の中で、とくにその人の名をつけて示し、年代的に、社会的政治的要素をも説明の中に含ませて記し、その業績の位置づけを明確に認知させようと努めている例が非常に多い。とくに、科学的分野の業績が非常に高く評価されるものは、個人の名称を併記した呼び名で（例えば、コルチ氏器官、ボイルの法則など）理解させるように試みられている。勿論、それらの記述中の人名の中には、とくに、社会科の教材と関連が直接的でないと考えられるものも（例えば国語現代文）可成り多いが、中には、歴史的にも重要でありながら、世界史や日本史の教科書では割愛されている人名も多く、それぞれの教科の立場で生徒に熟知される必要度のある人名が如何に多いかをつくづく感ずるのである。

生徒にとってみれば、いかに編者が、歴史的な位置づけを意識して理解させようと付記したものであっても、人名や業績の価値は、年代や政治、経済の諸問題と共に、社会科の歴史の分野でならば意識的に“人名”として印象づけられて行く傾向が強であろうし、親しみも深かろうが、他の分野で無意識的に接する場合は、それは極めて薄いに違いない。しかも、その量は案外に多いのである。

この点は、我々も十分に考慮してかからねばならぬことであって、とり扱いによっては多分にちぐはぐな、断片的理解だけを与えることに終始する可能性が多いのではなからうか。即ち、科学的分野の問題についていうならば、歴史教科書に紹介されてくる人々の業績については、その数式を解明する程の能力が仮りになくとも、その原則が発見されたことが、以後の科学の成長に如何なる関連性と役割とをもっているかを自らも理解すると共に、その原則に関連する素材を、その教科では、どの程度に、どの学年の何月頃に学習されて行くものであるか、或は又、それと関連した研究内容として、誰の、どの程度のことが学習されて行くのかを予め知っておくということは、社会の教科指導に少からぬ力添えとなるものである。又、歴史関係の教科書では説明の内容が極めて簡略でしかない音楽や美術の分野などにおいても、我々自身がそれらについての深い関心や素養又は興味などがある場合ならば、具体的

に内容のある指導は出来ようが、すべての指導者にそれを望むことは現実の問題として出来ない。しかし、そのような場合でも、最少限の内容として、高校でのそれぞれの教科で指導される素材を考慮にいれ、その中で最も適当な例について、学ばれる時期と内容を一応知って、その時間との関連をもたせるように、互に協力出来るような仕組みがとられるならば、或る程度、断片的に終始する空虚感をさけることも出来るのでなからうか。その場合、他の教科で紹介されてくる人名なども、より親密性のある人名として、社会の授業の中にも、生徒の意識の中にも、体系的に織り成されて行くものと思える。

☆ ☆ ☆

例年の教生がそうであるように、今年の教生の反省録をみると、指導の困難を訴えて次の様に記録していたのが目立った。即ち、1時間の授業のために、準備として平均8時間（70%、他は約3～5時間）を費しながら、十分に目標や内容の把握と構成が出来ず、技術的にも未熟であるからちぐはぐの授業に終り、全体の構成がわからないから自信がなかなかもてない、と。実際、その授業をみると、反省している通り、主題についての長時間の調査と検討を行い、まじめな態度で分に応じた効果は収めているようであるが、ややもすればその時間内の該当事項だけが断片として浮き上り、何か空々しい感じが残る傾向が多い。問題点は各指導教官からいろいろの観点から指摘されているが、例えば、経験不足からくる技術上の原因もあげられようし、又、調査不熱心のための構成不備、内容不足、性格上の欠陥からくる不明瞭性、或は教科相互の内容素材未知のため徒らに既習事項の繰り返して無意味な時間浪費、雑材の登場過多による主役の雲がくれ、など、はその主要なる原因の1つであろう。

それらの問題点も、不馴れは回数によって克服されようし、性格上の問題は同僚や教官の批判と注意によって次第に是正もされて行くが、関連素材については、これを避けるという意味ではなしに、重要ではあるが限られた期間内で、僅か一部分だけの指導を担当する今の環境としては、十分に事前調査を行う時間的余裕もない。しかもこの事は、単に教生だけの問題ではなく、多くの就任当初の人の体験談の中にもきく所で、関係教材の調査だけに没頭しても尚、満足の準備が必ずしも出来ない日々を送らねばならない様であるから、なかなか大変な問題である。

☆ ☆ ☆

ともあれ、上記の様な意味において、教生に与えられるべき要項の1つとしても必要であると思えるので、その参考に供するという意味で、次の様に、現在本校で使用されている教科書を参考にして見た。一体生徒たちは、どの程度の人名を紹介され、歴史的環境を想起する機会があるものだろうか。

教科書名

国語	高等国語 1～3	三省堂
漢文	新高等漢文 1～3	大修館
英語	Present-Day English Readers	中教出版
	Right and Delight (2～3)	大修館
音楽	高等学校音楽	好学社
美術	高校美術	日文教
生物	生物	大原出版
物理	自然の探究 物理	中教出版

☆ ☆ ☆

社会科の学習内容を構成している素材の中には、社会科内部の4科目相互の間においては、いうまでもないが、他教科にも取扱われている素材が可成り数多くみられている。勿論その学習の観点やねらいは、それぞれの教科・科目の立場において当然異つたものがあるわけであるが、その範囲と分量を相互に了承していることは、教科独自の使命をより明確につかみ、指導を適切に行うための1つの根幹でもあると思われる。

社会科内部の関係については、本誌第8号において小倉氏の記述があるから、ここに更めて詳説する必要もないが、指摘されている様に、とくに“社会”と“世界史”の関連性が、政治、経済、社会、倫理・思想などのあらゆる分野で強いものがあり、学年配置や素材の取扱いには最も深い注意が必要の様である。又、社会科学としての各分野の解説のためには、可成り多くの歴史人の名前も紹介され、古代から現代に至るまでの広い範囲にわたり、代表的世界人があげられるがその大要は次の様であり、生涯の間には何人も何回かこれらの人々には親しんで行く様である。

◆政治関係としては

ソクラテス、プラトン、マキャベリ、ボータン、ルソーなどを始めとして約70。

◆経済・社会では

マルサス、オーウェンなど約40。

◆倫理・思想では

エピクロス、孔子、サルトルなど約60。

が紹介されてくる。

◆国語科について◆

国語甲や漢文の教科においては、その目標を達成するために、広く古今東西の言語文化を通して、個々の目的に沿うように教材の配列と取り扱いが考慮されているので、教科書に紹介されてくる人名も、他の教科にくらべ非常に多くなってくる。教材がすべて個々の人々の個性をもち込んだ作品や論説であり、現在の諸問題のみならず、過去の言語文化を通して国語に関する能力や態度を十分に育成しようとするのであるから、取り扱われる素材は非常に多くの分野にまたがり、かつ、歴史的要素も大きな割合をしめているようである。それだけにこの教科は、社会科との共同素材を多く持ち、生徒に多くの人名を紹介している。とくに、漢文の教材の中には、古代の中国社会の政治・思想などの一端を具体的にその要旨をとりあげている部分が多いので、世界史や日本史の古代を指導して行く場合には、少くともその一部については、並行し補説しあつて大いに効果をあげ得る様に留意しなければなるまい。例えば、

◆国語甲1年の分野における、

御伽草子、宇治拾遺物語、今昔物語、平家物語、方丈記、徒然草、孟子、韓非子、戦国策、史記、漢書、水滸伝、など

◆2年の分野では、

蜻蛉日記、土佐日記、奥の細道、枕草子、更級日記、伊勢物語、新唐詩選など

◆3年の分野では

古事記、万葉集、古今和歌集、新古今和歌集、金槐集、梁塵秘抄、源氏物語、大鏡、和

漢朗詠集，去來抄

などが出題されているわけであるから、そのいずれもが、日本史を3年で履習させている現在の本校の課程の中では、随時、利用されて然るべきものであり、その扱い方を十分に考慮するならば、時間的に余り無理することなく立体的効果をねらうことも可能であろう。

漢文においては、さらに取り扱われている範囲は広く、次の表の如く、約100に及び、近世日本の儒学思想は勿論、古代中国の考究に好都合の材料が配置されている。そのすべてを利用する必要は勿論ないであろうが、学年の文章読解の力に応じて、引用、反復しながら必要事項を再認識させることは有効であることはいうまでもあるまい。とくに、1、2年の漢文に紹介されてくる次の様な一文は最も興味ある部分であろうと思われる。

即ち、

◇1年では

戦国策—借虎威

蒙 求—孟母三遷

韓 非 子—守株，矛盾

十八史略—鼓腹擊壤，南風之詩，一饋十起，張網四面，受命之君，采薇之歌，合從連衡，先從隗始，鷄鳴狗盜，連城之壁

唐 詩—春曉，春望，早發白帝城，送元二使安西，江雪，江南春

◇2年では

十八史略—天下三分之計，赤壁之戰，髀肉之歎，死諸葛走生仲達

史 記—鴻門之會，四面楚歌，學萬人敵，吾所以有天下者何

三 国 志—水師表

などである。

(使用されている漢文教材の表)

1 年	2 年	3 年
◇古代，三国，六朝時代 易 經，韓非子，孝 經， 詩 經，荀 子，戰国策， 莊 子，大 学，中 庸， 論 語，孟 子，礼 記， 老 子，史 記，說 苑	荀 子，論 語，孟 子， 漢 書，史 記，三 国 志	韓非子，儀 礼，孝 經， 詩 經，易 經，周 礼， 礼 記，老 子，莊 子， 尚 書，大 学，孟 子， 論 語，春 秋左氏伝， 毛 詩，列 子
◇唐 代 蒙 求，李太白集	韓昌黎集，本 事 詩， 杜工部集，李太白集， 樊川文集，白氏長慶集	本 事 詩，白氏長慶集
◇宋，元，明，清 五 代 史，三 体 詩， 資 治 通 鑑，小 学， 十 八 史 略，唐 詩 選， 五 雜 組，唐 詩 三 百 首	古文真宝，十八史略， 唐 詩 選，唐宋八家文	資 治 通 鑑，太 極 図， 通 書，大 学 章 句， 太 極 図 説，大 学 或 問， 十 八 史 略，大 学 問， 伝 習 録，唐宋八家文

◇日本の漢文

慎思録, 言志四録,
遠思楼詩鈔, 皇朝全鑑,
皇朝史略, 山陽詩鈔,
山陽先生行状, 絶句類選,
先哲叢談, 息軒遺稿,
日本外史, 栗山文集,
和漢朗詠集

虎山文集, 山陽詩鈔,
宕陰存稿,
木戸孝允文書

懷風藻, 千字文,
令義解, 江談抄,
皇朝史略, 古今集,
古事記, 日本書紀,
万葉集, 本朝一人一首,
和漢朗詠集

これらの教材に加えて、さらに3年までの間に、日本文学史の概説とそれに付帯した抄文が数多く国語甲に収録されているし、別に本校生徒は、課外の副読本として、まとまった日本文学史を一冊使用して、時間外の必修（主として家庭学習）として、3時期に分けて学習を進めている。恐らくは、日本史との関連を国語科の立場で考慮して、少い時間の中で多くの内容を処理しようと試みているに違いないが、有機的な学習領域の連繋は今一層緊密でなければならぬ節も多いように思われる。その主体をどちらにおくかは、その観点と目標が異なる点もあつて、相当な困難は予想されるが、いつかの機会に試案は作られてもよいのではなからうか。その場合、重点はむしろ日本史の学習時よりも、国語の学習時における関心の方が強く、効果的であるように思える。但し、1, 2年において日本史の学習を行わないのであるから、各学年に分割して取扱うという方法も別に考慮されねば十分な成果をあげることはむづかしいかもしれない。

尚、国語・漢文で紹介されてくる人名は次の様であり、思想、文学史上の有名人はもとより、政治的分野において顕著な活動と功績を残しながらも歴史の教科書では紹介されてこない多くの人名に接することになり、生徒にとっては、国語科は実に多数の人名紹介の教科となっているのである。

◇国語甲では◇

	3年	2年	1年	計
西洋人	28	19	16	63
アジア人	13	24	37	74
日本人	113	89	73	275
計	154	132	126	412

漢文では

六朝以前	47	66	51	164
隋唐～清	35	25	16	76
日本人	85	7	23	115
計	167	98	90	355

となっているが、具体的に歴史教科書などどの程度が重なっているかを知るために挙げてみると次の様になる。

(国語甲にみられる人命)

1 年

◇西洋関係

ゲーテ
シェクスピア
ツルゲネーフ
トルストイ
シュレーゲル
スタニスラフスキー
シューベルト
O・ヘンリー
E・M・フォースター
L・ハーン
A・フランス
ベーコン
メーテルリンク
メイエルホルド
H・リード
ラインハルト

2 年

アルフレッド・ベグネル
カーライル
クライヴ
ゴッホ
ゴーガン
カール・ブッセ
グレゴリー夫人
シヨー
ジョージ・スーラ
シュヴァイツァー
デモステネス
チャールズ・ラム
ダヌンチオ
ネロ
バベジ
パスカル
フィリップ
マチス
モッパッサン

3 年

イプセン
ヴォルテール
ヴェルレーヌ
ゲーテ
ソロモン
シーザー
スタンダール
シェクスピア
トルストイ
ドストエフスキー
ニーチェ
ナポレオン
フレッチャー
バルザック
ホイットマン
プラトン
ピタゴラス
ベルナール
パスカル
ヒルテイ
ホイットニー
モーパッサン
ユーゴー
J・I・リー
ロックフェラー
ロチ
ワーズワース,
リンカーン

◇東洋関係

王陽明, 歐陽脩, 王安石,
王翳, 韓非子, 高駢,
韓愈, 孔子, 灌嬰,
項羽, 舍利弗, 朱子,
蘇洵, 蘇軾, 蘇轍,
曾鞏, 司馬遷, 施耐庵,
周勃, 始皇帝, 曹無傷,
杜牧, 杜甫, 張良,
沛公, 班固, 樊噲,
范增, 孟子, 孟浩然,
龍樹, 劉玄德, 呂祖謙,
柳宗元, 廉頗, 藺相如,
呂馬童

王維, 王昌齡, 王翰,
孔子, 安祿山, 袁俛,
玄宗, 顏淵, 漢武帝,
高適, 莊子, 子路,
岑參, 蘇軾, 杜甫,
白居易, 孟子, 楊貴妃,
老子, 列子, 李微, 李白,
劉廷文, 林逋

寒山, 拾得, 韓退之,
屈原, 周作人, 施耐庵,
陶淵明, 道翹, 普賢,
煬帝, 閻丘胤, 魯迅,
李義山

◇日本關係

一寸法師, 安徳天皇,
安達泰盛, 芥川龍之介,
大久保康雄, 阿部知二,
五十嵐力, 今井四郎兼平,
内田百閒, 桓武天皇,
葛原親王, 後白河法皇,
柿本人麻呂, 鴨長明,
草野心平, 北原白秋,
木下利玄, 河東碧梧桐,
黒田清輝, 幸田文,
幸田露伴, 串田孫一,
神吉三郎, 小泉八雲,
貝塚茂樹, 北村喜八,
木下順二, 金田一春彦,
小穴隆一, 佐々木信綱,
佐藤春夫, 島崎藤村,
西行, 虚子,
平清盛, 重盛,
維盛, 忠盛,
忠度, 経正,
鳥羽上皇, 手塚太郎,
土肥次郎, 高市黒人,
田部隆治, 土岐善麿,
内藤鳴雪, 夏目漱石,
内藤濯, 西尾実,
波多野完治, 藤原実定,
芭蕉, 三好達治,
子規, 馬鳴,
日蓮, 以仁王,
三浦為久, 宮城道雄,
宮沢賢治, 与謝野晶子,
吉川幸次郎, 山田肇,
吉田兼好, 源満仲,
頼義, 頼信,
頼政, 義仲,
範頼, 義経,
若山牧水

伊藤左千夫, 飯田蛇笏,
一条天皇, 芥川龍之介,
上田敏, 伊藤整,
一茶, 五十嵐力,
白秋, 其角,
去来, 蒲原有明,
虚子, 碧梧桐,
茅舎, 楸邨,
独歩, 菊池寛,
久米正雄, 多喜二,
河盛好藏, 観阿弥清次,
清原宣賢, 北村透谷,
島木赤彦, 齐藤茂吉,
渋沢秀雄, 秋桜子,
下田将美, 清少納言,
菅原孝標, 志賀直哉,
島崎藤村, 式亭三馬,
佐伯梅友, 菅原道真,
世阿弥元清, 寺田寅彦,
谷崎潤一郎, 橘俊通,
滝田樗陰, 滝井孝作,
竹山道雄, 近松門左工門,
徳富蘆花, 太祇,
長塚節, 能因法師,
中村草田男, 長沢規矩也,
永野賢, 中島敦,
夏目漱石, 荻原朔太郎,
堀辰雄, 藤原清輔,
藤原清衡, 基衡,
秀衡, 凡兆,
蕪村, 藤原道隆,
彰子, 伊周,
倫寧, 道綱,
兼家, 佐理,
裕伊之助, 福田半香,
樋口一葉, 三木露風,
正岡子規, 増尾兼房,
松尾芭蕉, 源高明,
行綱, 村上菊一郎,
三宅恒方, 三好達治,
森鷗外, 文武天皇,
矢内原伊作, 鳴雪,
山本建吉, 山口誓子,

有島武郎, 池上保太,
入矢義高, 生島遼一,
小川二郎, 大山定一,
市原豊太, 石川啄木,
太安麻呂, 有馬皇子,
大伴旅人, 大伴家持,
在原業平, 小野小町,
凡河内躬恒, 大江千里,
大友黒主, 阿倍仲麻呂,
大江匡房, 大江朝綱,
葛西善藏, 片山嘉雄,
桑原武夫, 黒岩涙香,
小堀杏奴, 草間平作,
熊沢龍, 金田一京助,
景行天皇, 柿本人麻呂,
紀貫之, 紀友則,
喜撰法師, 後鳥羽院,
後白河法皇, 花山天皇,
弘法大師, 曲亭馬琴,
紀齊名, 去来,
島村抱月, 鈴木信太郎,
佐藤春夫, 佐藤信衛,
重友毅, 推古天皇,
持統天皇, 志貴皇子,
狭野茅上娘子, 西行,
式子内親王, 菅原道実,
菅原文時, 酒堂,
西園寺公経, 高村光太郎,
高村智恵子, 坪内逍遙,
天武天皇, 天智天皇,
武市黒人, 太祇,
近松門左工門, 夏目漱石,
中村光夫, 成島柳北,
永井荷風, 南部義籌,
西周, 額田王,
萩原朔太郎, 浜尾新,
長谷川如是閑, 遍正,
稗田阿礼, 藤原敏行,
文屋康秀, 定家,
家隆, 実定,
俊成, 良経,
秀能, 公任,
兼家, 道長,

吉川幸次郎，嵐 雪，
華 山

道 兼，道 隆，
教 通，伊 周，
松尾芭蕉，凡 兆，
森 鷗外，真下信一，
森田思軒，森 有 礼，
三浦岱榮，前 島 密，
壬生忠岑，源 実 朝，
木居宣長，都 良 香，
松平定信，吉田東伍，
米川正夫，横田喜三郎，
湯川秀樹，山上憶良，
山部赤人，湯 原 王，
吉田兼好，慶滋為雅，
与謝蕪村

(漢文教科書にみられる人名)

◆六朝時代まで

I年：

伊尹，箕子，桀，禹，堯，舜，紂，神農，湯，伯夷，叔齊，比干，微子，周武王，周文王
閔龍逢，呂尚，哀公，樂毅，顏回，樂正子春，管仲，藺相如，廉頗，韓非子，鬼谷先生，
慶封，孔子，子夏，子貢，子思，子張，子馬牛，春申君，商鞅，子路，信陵君，齊桓公，
莊子，老子，曾參，蘇秦，張儀，平原君，鮑叔，孟嘗君，孟子，曹丕，劉備，諸葛亮，
陶潛

II年：

懷王，顏淵，樂毅，管仲，黔婁，孔子，子夏，子貢，子馬牛，子游，荀卿，子路，曾參，
孟子，老子，袁術，王翳，蒯徹，灌嬰，夏侯嬰，韓信，紀信，靳彊，司馬徽，項羽，項伯，
子嬰，司馬遷，張良，陳勝，陳平，董允，董承，沛公，當陽君，樊噲，班固，范增，楊喜，
劉琮，呂馬童，曹無傷，賈詡，敦攸之，姜維，司馬懿，謝惠連，周瑜，謝靈運，何龍，諸
葛亮，徐庶，曹操，曹丕，孫權，張郃，張昭，陳壽，陶潛，費禕，龐士元，楊儀，劉禪，
劉備，劉表，魯肅

III年：

許由，申徒狄，彭祖，鬻子，顏回，惠施，公孫龍子，公明儀，周公旦，莊子，鄧析，杜
預，墨子，孟子，楊子，煬帝，老子，劉邦，許都，袁安，孔安國，袁術，袁紹，郭泰，何
進，孝章帝，項籍，光武帝，晁錯，鄭玄，陳蕃，董卓，杜喬，范滂，服虔，符融，楊震，
李固，靈帝，李膺，呂布，王弼，何晏，諸葛亮，曹操，孫權，劉備

◆隋唐以後

I年：

王維，王之渙，耿湯，高駢，戴叔倫，張繼，張敬忠，杜甫，杜牧，李白，孟浩然，柳宗元，
劉廷芝，朱熹，蘇軾，曾先之

II年：

韓愈，王君奭，王之渙，顏真卿，韓愈，高力士，崔顥，肅嵩，沈既濟，岑參，陳玄祐，
杜甫，杜牧，裴光庭，白居易，李公佐，李白，柳宗元，劉廷芝，盧綸，歐陽脩，曾鞏，勝

子京，范仲淹，曾先之

Ⅲ年：

安祿山，高力士，白居易，熊孺登，王質夫，韓愈，元稹，昭宗，陳玄祐，陳鴻，孟繁，孟東野，楊玄琰，尹焞，歐陽脩，胡安國，司馬光，朱熹，周惇頤，黃庭堅，邵雍，胡銓，張載，蘇轍，程頤，程顥，文彥博，羅從彥，楊時，陸九淵，趙鼎，李侗，王守仁，劉瑾，黃遵憲

◆日本関係

I年：

今川氏真，上杉謙信，新井白石，伊藤仁齋，伊藤東涯，井上蘭台，岡島仲通，貝原益軒，菅得庵，木下順庵，熊沢蕃山，月性，佐藤一齊，柴野栗山，高倉天皇，武田信玄，中江藤樹，林羅山，原善，広瀬建，藤原信成，北条氏康，頼山陽

II年：

木戸孝允，坂井華，塩谷宕陰，柴野栗山，徳川光圀，安井息軒，頼山陽

III年：

会沢正志齋，秋山玉山，安積沮泊齋，浅見綱齋，新井白石，猪飼敬所，市川寛齋，伊藤仁齋，伊藤東涯，岩垣東園，大窪詩仏，荻生徂徠，貝原益軒，柏木如亭，亀井南溟，和邇吉師，在原業平，菟道稚郎子，大江朝綱，大津皇子，大伴黒主，大伴佐提比古，小野妹子，小野老，小野小町，小野篁，柿本人麻呂，軽皇子，喜撰法師，菅茶山，祇園南海，菊地五山，木下順庵，熊沢蕃山，古賀精里，古賀侗庵，齊藤拙堂，佐藤一齊，塩谷宕陰，紀齊名，嵯峨天皇，猿丸大夫，聖徳太子，菅原文時，僧正遍昭，衣通姫，高倉天皇，高市麻呂，橘直幹，柴野栗山，太宰春台，徳川綱吉，徳川光圀，中井竹山，中井履軒，中江藤樹，那波活所，服部南郭，林述齋，林信篤，林羅山，藤原惺窩，藤原不比等，文屋康秀，藤田東湖，藤田幽谷，広瀬淡窓，帆足万里，細井平州，尾藤二州，三輪希賢，室鳩巢，松崎愷堂，源英明，都良香，文武天皇，山上憶良，山部赤人，安井息軒，慶滋為雅，梁川星嶽，梁田蛻巖，頼山陽，頼杏平，山崎闇齋

◆英語科について◆

取りあげられている材料が，神話とか，探険物語，発明物語，文学論などが中心となって居り，短い内容で限られた頁数を埋めてあるために，期待される程多くの人名は出て来ないし，紹介されてくるものも，歴史の教科に関連して著名なものが多い様であるから，その内容を強い印象と共に学習させるには，むしろ，英語担当者の世界史的価値の認識を前提として進められる方が妥当の様に思える。紹介されてくる主要人名は次表の通りである。

I年：

キップリング，テンシン，マルコ・ポーロ，コロンブス，マゼラン，ヒラリー，エリザベス女王，ビクトリヤ女王，デッフォー，アンデルセン，ハムレット，シェクスピア，孔子，ハーン，ジンギス汗，リンカーン，コスタ，カツクストン，グーテンベルグ，ラ・フォンテーヌ，イソップ，ガリバー，アポロ，クライスト

II年：

アダム，エホバ，キリスト，ロマン・ローラン，シルレル，マンズフィールド，モーム，ツルグネーフ，ドストエフスキー，ミケランゼロ，ブロンテ，メルヴィル，スコット，ゲーテ，バイロン，ワット，ステブンソン，ポセイドン，リヴィウス，ジュピター，ゼウ

ス、アリストファーンネス、アリストテレス、アムンゼン、ロレンツ、レントゲン、キューリー夫人、アインシュタイン、コッホ、パストール、エチソン、リンドバーク、ツェピリン、フロイド、フォード、

Ⅲ年：

ラム、ジョンソン、チエコフ、ガリレオ、ニュートン、ショペンハウエル、ゴーク、ピカソ、シュトラビンスキー、ライト、トーマス・マン、アナートル・フランス、ローレンス、ジョイス、パソス

◆音楽科について◆

日本史においては、音楽について触れることは殆んどなく、世界史教科書においても、教会と音楽並びに、古典派、ロマン派の活動期について若干の代表者の名をあげて説明も僅か2～3行にわたって記載されているのが一般的傾向である。音楽の教科書では、特に巻末に西洋及び日本の音楽史を体系的に述べて、その動向を明らかにしようと試みられているが、週2時間の時間配当では、主として三学期に音楽史を振りあてても十分にこれを履習し終ることは困難であるように思える。況んや選択教科であるから、すべての生徒が3カ年にわたって選択するとも限らないし、音楽史の学年分割履習も無意味であり、又、世界史の年代観も十分でない時に教えられることにも問題もあり、相互の連繋が十分に考慮される余地が多分にあるように見うけられる。

教科書に紹介される人名は音楽史の分野をも含めて可成り多数となっているが、主要なものは学習される代表作も併せて次に列挙してみることにする。殆んどが15世紀以後である。

プラトン、アリストテレス、ピタゴラス、グレゴリウスI、フクバルト、カノン、ランディーノ

ラッソ（ミサ曲）、ジャンヌカン、イザック、パレストリーナ（よきみ子に）、ヴィットリヤ、ギボンヌ

モンテヴェルディ、スカルラッチィ、カリッシーミ、ヴィターリ、コレルリ、パーセル、リュリー、クーブラン、バッハ（おきよ、農民カンタータ）、ヘンデル（ハレルヤコーラス）、グルック、ハイドン（セレナーデ）、モーツアルト（満足、パバゲノの歌）、ベートーベン（われなれを愛す）、ウエーバー、

シューベルト（朝の挨拶、のばら、ます）、ショパン（別れの曲）、シューマン（はちすの花）、メンデルスゾーン（晩秋、郷愁）、リスト（愛の夢）、ベルリオーズ、ワーグナー、フンパーディンク（ヘンゼルとグレーテル）、マーラ、ヴォルフ、リヒャルト・シュトラウス、ブラームス（日曜日、五月の歌、冬の田園詩）、ロッシーニ、ヴェルディ、パガニーニ、シルハー（ローレライ）、メーソン、グローバー、ロイテル、モーロイ、レーガー

ボロディン（イゴール公）、ムソルグスキー、リムスキーコルサコフ（サドコ）、キューイ、バラキレフ（聖史曲）、チャイコフスキー、スメタナ（モルダウの流れ）、ドヴォルザーク、グリーク（ソルベークの歌）、シベリウス、アルベニス、グノー、サンサーンス、ビゼー（スペインのセレナーデ）、プッチーニ

ドビュッシ（ロマンス）、ラヴェル、シエーンベルク、ストラヴィンスキー、ヒンデミット、プロコフィエフ、オネガー、ミロー、ショスタコヴィッチ

伊沢修二、メーソン、田中正平、三浦環、山田耕筰、近衛秀麿、藤原義江

◆美術について◆

絵画や彫刻を中心に、表現と観賞を主目標として、その能力や知識を高めるに適した写真版を、多く近代のものからえらんで紹介する傍ら、整った体系の中で日本や世界の各分野にわたって、原始時代以降の美術史を概説しながら、文化遺産に親しみ易い様に編まれており、世界史や日本史の文化遺産を取り扱った部門より遙かに具体的であり体系的に示されている。しかしながら、音楽の場合と同じ様に、表現などの学習経程に多くの時間数が費され、2単位学習の中、3学期の一部を美術史的学習にふりあて、学年別に世界・日本などの体系を把握出来るように指導されて行く様であるから、日本史や世界史の履習進度と関連をもたせて行くことも仲々困難の様である。この教科自体で史的理解がどの程度進められるのかは別問題であろうが、我々としては、豊かな材料を盛り込んだ教科だけに、漢文や国語などと共に、十分に素材の手頃なものを調べ、進度に関連をもたせる様に配慮しながら活用出来るように仕組むべきではなからうか。

美術史の中で紹介されてくる人々は、大体、大差なく重複もみられるが、それ以外の目的で紹介されてくる著名な人名を拾いあげてみると、

川口軌外、関野準一郎、猪熊弦一郎、水船六州、斎藤清、橋本興家、新井広治、滝平三郎、大内青圃、長谷川潔、安藤広重、吉川霊華、木村荘八、梅原龍三郎、渡辺華山、浦上玉堂、富田溪仙、西村五雲、藤島武二、平福穂庵、円山応挙、水溜米室、安井曾太郎、任熊、牧谿、(仏)……ブラサイ、ジャン・デルロ、ポール・セザンヌ、オーギュスト・ルノアール、モーリス・ド・ヴラマンク、ジョルジュ・ブラック、コロウ、ベルナルド・ピュッフェ、ウージェーヌ・ドラクロア、ピエル・ラブラード、アンドレ・ドラクワ、ラウル・デュブイ、アンリ・マチス、ジャック・ルイ・ダヴィッド、ポール・ゴーギャン、ポール・シニヤック、アメデ・オザンファン、フェルナン・レジェ、アンリ・ルッソー、シャルル・ラピック、モーリス・ユトリロ、ピエル・スーラ、ジャック・ヴィヨン、ギュスターヴ・サンジエ、オシップ・ザツキン、マルセル・アントアヌ・ジモン、フランソワ・ボンボン、オーギュスト・ロダン、アリストイード・マイヨール、エミール・アントアヌ・ブールデル、ジャック・リブシツ、(伊)……レオナルド・ダ・ヴィンチ、アントニオ・ピサネロ、アメデオ・モディリアーニ、ジオルジオ・モランジ、マッシモ・カンピリーバルチン、マリノ・マリーニ、ミケランジェロ、(蘭)……ピエトル・モンドリアン、レンブラント、ロイスダール、ゴッホ、(その他)……ワードウェル・ストーン、スザン・シャーマン、ジェームス・ホイッスラー、モホリ・ナギー、ベン・シャーン、ヘンリー・ムーア、ベン・ニコルソン、フェルジナンド・ホドラー、パウル・クレー、アルブレヒト・デューラー、ピーター・ブリューゲル、トクリシュウイッチ、ベラ・スザポー、アレクサンドル・アルキベンコ

◆理科について◆

生物、物理、化学及び地学がこの分野ではそれぞれ別個に選択学習されていることでもあり、それぞれ編集者の態度も異っているので、一体化された自然科学史的なものの取扱いは探し出すことが出来ない。今とりあげた教科書の中では、生物だけがとくに生物学の研究発展の経過の概要を、歴史的に12ページ位をさいて述べているが他の部門については、直接関係のある部分以外は、とくに記述されてもいない。勿論、これは、各教科でとくに歴史的経過を教えることが主体でもないようだから、それでよいに違いないが、欲をいえば、僅かの頁数でもよいから、学習の補助として、単なる年表的表示以外に、前人の努力と後輩の成果

を何らかの連がりをもたせて解説されている教科書が使用されたら好都合でないかと思える。

世界史の近世以後においては、とくに自然科学の発展について述べられる所が可成り出ているのであるが、単に並列的にならべただけで、平板的な受驗的取扱いに終りかねないと、日頃自らも注意しながらも満足した科学的理解の裏付けが不確かなままに、不本意な取扱いに終っている様な現状を反省して、その感が一層深いのである。政治思想や経済の動向だけでなく、もう少し関心の持たれる様な取扱いがこの部門においてなされてほしいものである。

この様な特別に意図された歴史的記述はないにしても、それぞれの科学的原理の解説には、特に偉大な歴史的功績を残した科学者について、写真とその活動概要を紹介して関心を払わさせているし、世界史などの教科書ではふれられていない科学的な解説も織り込まれているから、非常に参考に使われる個所が多い。しかも、これらの理科の各分野では、その原理発見者の名を永久に残すためであろうか、原理の呼称に人名を付して記念し、学習者への関心を深めさせている場合が多く、このようにして紹介されてくる人名や補助材料はどの程度になるものか、次の主要人名だけを列挙してみると次の様になる。(関係事項略)

◇生 物

(細胞) R・フック, M・シュライデン, Th・シュワン, モール, ブラウン, パプロフ, ロイブ, ドゥラーシ, バタイヨン, フォークト, シュペーマン

(遺伝) メンデル, D・フリース, チェルマク, コレンス, モルガン, ペインター, ベーツソン, ヨハンゼン

(進化) ヘッケル, キュービエ, E・ダーウイン, ゲーテ, ビュツフォン, ラマルク, C・ダーウイン, ハックスレイ,

(分類) リンネ

(その他) パセドー, ランゲルハンス, ボーマン, マルピギー, ウェーベル, ライスネル, コルチ, ユースタキー,

(生物学の歴史) アリストテレス, ガレヌス, ゲスネル, レオナルド・ダ・ビンチ, ベサリウス, ハーベイ, ヤンセン, ロバート・フック, マルピギー, レーウェンフーク, スワンメルダム, レイ, リンネ, ウェーラー, ベルナルル, ゲーテ, キュービエ, シュライデン, ウォルフ, ヘルトウィヒ, ベーア, レディ, パスツール, ビュッフォン, ラマルク, ライエル, ウォーレス, メンデル, コレンス, モルガン, シュペーマン, コッホ, リスター, フレミング, ワックスマン, ランドシュナイター, イワノウスキー, 志賀潔, 北里柴三郎, 野口英世

◇物 理

(物体の変形) パスカル, アルキメデス, トリチエリー, ボイル, マリオット, ドルトン, フック, セルシウス, ファーレンハイト, ジャルル

(熱) ランフォード, カピツア, コリンズ, ジュール, ブラウン

(波) メルセンス, ガッサンディ, セング, フィゾー

(電流) ガルヴァーニ, ヴォルタ, クーロン, フレミング, オーム, キルヒホフ, ホイートストン, ジュール, アンペール, エールステッス, ファラデー, レンツ, デーヴィ, アラゴ

(電子) トムスン, ウイルスマン, ミリカン, ヘルツ, レントゲン, クーリッジ, パー
ディーン, ブラッティン

(物質の組立て) メンデレフ, ストーン, ラウエ, フリードリッヒ, クニッピング,
ブラック父子, ベックレル, キューリー, ラザフォード, トムスン, アストン, アンダース
ン, チャドウィック, ネッターマイヤー, パウリ, パウエル, ガードナー, ラテス, ロチェ
スター, バトラー, 湯川秀樹, コッククロフト, ウォルトン, ハーン, シュトラスマン, マ
ックミラン, フェルミ

(光) エウクレイデス, イブン・アル・ハイサム, スネル, ホイゲンス, デカルト, ガ
リレイ, ケプラー, シャイナー, ニュートン, ダゲール, ニエプス, イーストマン, フラウ
ンホーファー

(その他) アリストテレス, コペルニクス, プラーエ, キャベンディッシュ, ケプラー
◆化 学

(基礎) ボイル, アレニウス(身近の元素)レーリー, ラムセン, デモクリトス, ラボ
アジエ, ブルースト, ゲイ・リュサック, ドルトン, アボガドロ

(物質の状態) トリチエリ, ボイル, シャルル

(溶液) ブラウン

(金属) ホール, エルー, ファラデー

(周期律) メンデレフ, ボーア, キューリー夫人, ラザフォード, ジョリオ夫妻, アイ
ンシュタイン

(非金属の化合) ハーバー, ボッシュ, ル・シャトリエ

(動植物の成分) ベルツエリウス, ウェーラー, リービッヒ

(有機合成) パーキン, カロザース

上記の人名中, 科目によって重複して出てくるものもあるが, その数を表記してみると,

国 語 甲	412	生 物	76
漢 文	355	物 理	86
英 語	74	化 学	31
音 楽	80		
美 術	83	合 計	1197

となって, 社会科全体のそれを加えると相当量のほるようである。

☆ ☆ ☆

社会科の学習指導に關して, 基礎的必要事項が数多くある割に, いろいろの面で等閑視さ
れ勝ちのものが可成りある。今, 教生の実習を終るに當り, その必要性を感じたことの一
端を表示し, 次回以後の実習生に参考になればと念願するものである。